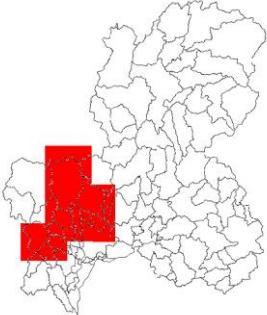


エンシュウツリフネソウ	<i>Impatiens hypophylla</i> Makino var. <i>microhypophylla</i> (Nakai) H.Hara	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		ツリフネソウ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(加藤範夫)
形態の特徴	茎の高さ40cm前後の1年草。花期は7-10月。花序は葉腋から出るが、すぐ下に曲がって葉の裏に隠れるように下垂する。花は淡紅紫色で、長さ15-20mm。近縁種のアガツリフネソウより葉が狭く、花は小さい。	
生態的特徴	丘陵帯上部付近の山地の林内や林縁に生える。	
分布状況	日本固有種。本州の中部地方南部に分布する。県内では県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の西部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良